

## 第 39 回日本原子力学会バックエンド部会全体会議議事録

日時:2013 年 9 月 4 日(水)12:00～12:25

場所:八戸工業大学 N会場

### 議事内容

#### 1.長尾部会長挨拶

#### 2. 平成 25 年度活動中間報告

##### 2.1 企画報告

##### 2.1.1 企画 A

##### ①大会・年会における企画セッション関係

##### ・2013 年秋の大会

バックエンド部会企画セッションはクリーンアップ分科会と共催で、「福島第一原子力発電所事故に起因する環境修復の進展に向けて」として開催することを報告した。プログラムの概要は以下の通り。

・9 月 4 日(水)13:00－14:30 N 会場

座長:(東海大学)大江 俊昭

講演(1) 環境修復活動における実践と課題:(東北大学)佐藤 修彰

講演(2) 環境修復技術の現状と今後の課題:(JAEA)田川 明広

総合討論:講演者, コメンテーター((東芝)藤田 玲子, (JAEA)中山 真一)

##### ・2014 年春の大会

2014 年 3 月 26 日(水)～28 日(金)の予定で、東京都市大学世田谷キャンパスで開催される 2014 年春の大会での企画セッションについて、企画のアイデア・希望を運営委員まで連絡するよう依頼した。(10 月中旬まで)

##### ②プログラム編成

2013 年秋の年会のプログラム編成について、以下の編成委員のご尽力を得て行ったことを報告した。

コード	専門分野	WG リーダー	WG メンバー
409	放射性廃棄物処理	目黒義弘(JAEA)	稲垣八穂広(九州大学) 斉藤拓巳(東京大学) 野下健司(日立)

410	放射性廃棄物処分と環境	藤井直樹(原環センター)	稲垣学(NUMO) 稲垣八穂広(九州大学) 斉藤拓巳(東京大学) 三枝博光(JAEA) 野下健司(日立) 目黒義弘(JAEA)
411	原子力施設の廃止措置技術	北村高一(JAEA)	田中宏和(三菱マテリアル)

### ③国際会議関係, その他

#### ・EAFORM (East Asia Forum On Rad-waste Management)

東アジア諸国の放射性廃棄物管理の関連組織間での協力促進のための国際会議である, EAFORM は第 4 回大会が 2013 年 10 月 14 日(月)~16 日(水)の予定で, 北京で開催される。EAFORM 小委員会での検討を経て, 日本より基調講演 1 件, 技術報告 7 件を発表予定であることを報告した。

#### ・学会英文誌創刊 50 周年記念 海外研究者レビュー論文の執筆者推薦

学会編集委員会より各部会に執筆者推薦の依頼(当該分野の第一人者 1~2 名)があった。運営小委員会で候補者を検討中(募集中)であることを報告した。

#### ・学会誌アトモスへの“バックエンド連載講座”の企画検討

前回の連載講座から約 10 年が経過し, 多くの技術的進展がみられ, さらに 3.11 を背景にバックエンドを取り巻く環境も変わりつつあることから, わかりやすい連載記事を企画すること, 及び 2014 年 4 月号から 8 回シリーズでの連載開始を希望とし, 以下の内容で執筆者を検討中であることを報告した。

(1) 放射性廃棄物の概要, (2) 放射性廃棄物の管理, (3) 原子力施設の廃止措置, (4) 放射性廃棄物の処理, (5) 放射性廃棄物の処分, (6) 我が国の地質環境, (7) 地層処分システムの安全評価, (8) 将来展望

### 2.1.2 企画 B

第 29 回バックエンド夏期セミナーの開催概要、アンケート結果を報告した。

- 日時:2013 年 8 月 7 日(水)13:30~8 月 8 日(木)16:30  
場所:福島県福島市 コラッセふくしま  
参加者:92 名(学会員 62 名、非会員 14 名、学生会員 7 名)  
テーマ:東日本大震災後の取り組みの現状と課題
- 講演資料は部会ホームページ(夏期セミナー)にて掲載予定
- 講演再録、セミナー参加記が部会誌次号に掲載される予定
- 優秀なポスター発表に関し、表彰状を授与(バックエンド部会優秀講演賞)  
東北大学 倉田 大輝  
水酸化カルシウム水溶液流動場における花崗岩表面の変質過程の評価

・今後、アンケート結果を元に来年のセミナーについて(開催場所、内容など)検討予定。

### 2.1.3 企画 C

「学会事故調」対応について報告した。

① バックエンド部会から以下の委員(2名)を推薦した[敬称略]。

- 林道 寛 (日本原子力研究開発機構)
- 新堀雄一 (東北大学大学院工学研究科)

② 対応状況

報告書9.4章「事故炉の廃止措置と放射性廃棄物の処理・処分」について委員2名を中心に執筆した。なお、最終報告書(ドラフト)の公開は以下のスケジュールで行われる。

- ・東京での説明会:9月2日(月)13:00~17:00
- ・秋の大会企画セッションでの説明:9月4日(水)14:40~16:40, A 会場

## 2.2 広報報告

部会 HP 小委員会活動, 説明員登録制度ワーキンググループ, H25 年度週末基礎講座の予告について報告した。

① H25 年度 部会 HP 小委員会活動について

(1) 部会ホームページの管理・運用 (<http://www.nuce-aesj.org/>)

- お知らせ・会議案内 : 日本地質学会レギュラーセッション(原子力学会共催)案内掲載
- 部会誌「原子力バックエンド研究」記事・論文等の先行公開, バックナンバーの公開
- 夏期セミナー・週末基礎講座:プレゼンテーション資料の掲載
- 部会表彰:過去の受賞者リストの整備, 公開 等

(2) バックエンド部会情報メールサービス(メーリングリストによる情報連絡)

配信実績 : H25 年度 18 件(4/1~8/26), 配信先 : 542 名(8/26 現在)

メール配信ご希望の方, アドレスの変更があった方は広報担当までお知らせ願いたい。

(3) ホームページ小委員会メンバーの紹介

② 説明員登録制度ワーキンググループ

経緯 :

- ・バックエンド分野において, 中立・公正な科学技術者集団としての学会の立場から, より積極的な情報発信を行うことにより社会的貢献を行っていきべきとの声を受け, 平成 19 年より検討開始。
- ・情報発信・コミュニケーション手段の一環として, 「説明員登録制度(仮称)」が検討され, 平成 21 年 3 月の部会総会において試行が承認されたが, 具体的な実施に至っていない。
- ・平成 24 年 8 月, 検討ワーキンググループを設立。

目的 :

- ・部会としての情報発信の方法やコミュニケーションのあり方等について, 運営小員会に提言する。
- ・「説明員登録制度(仮称)」の実施にむけた課題の検討と制度の再構築に取り組む。

第 1 回ワーキンググループ開催 (H24. 8. 24) :

- ・学会の異常事象解説チーム(チーム 110)等の制度を参考に検討を継続することとした。

ワーキンググループメンバー

主査	山本 正史	前部会長	原環センター
	長尾 誠也	部会長	金沢大学
	田辺 博三	元部会長	原環センター
	小崎 完	元運営委員	北海道大学
	稲垣 八穂広	元運営委員	九州大学
事務局	北島 英明	運営委員(広報)	原子力安全推進協会
同	前川 恵輔	運営委員(広報)	原子力機構

③ H25 年度週末基礎講座 予告

開催目的：

- ・放射性廃棄物の処理処分などのバックエンドに関連する広範な分野について、基礎的な知識を身につけていただくことを目的として開催します。この分野に興味をお持ちの学生の皆様や、新たに業務や研究を始められた方々にとどまらず、すでにこの分野でご活躍の方々に、改めて関連する基礎知識を再確認されたい方など、どなたでも受講になれます。
- ・参加者相互の交流の機会を提供する。

日程：

H25 年 10 月 26 日(土) 午後 および 27 日(日)

場所：

金沢大学

プログラム（調整中）：

近日中に部会HP、部会情報メールにてお知らせいたします。

2.3 出版報告

部会誌「原子力バックエンド研究」、J-STAGE におけるオンライン公開、部会誌への投稿原稿の形式指定、部会員の皆様へのお願いについて報告した。

①部会誌「原子力バックエンド研究」

- ・Vol.20 No.1(2013 年 6 月 Web 公開)、
- ・次号の予定 Vol.20 No.2 (2013 年 12 月)
- ・CD-ROM 発送

Vol.20 No.1 および Vol.20 No.2 を収録した CD-ROM を 12 月～1 月頃に発送予定

②J-STAGE におけるオンライン公開

- ・公開中: Vol.9-1～Vol.19-2 (研究論文, 技術報告, 総論等)
- ・2013 年 4 月にアーカイブを大幅に追加
- ・最新号 Vol.20 No.1 総論1件、技術報告 1 件を追加(7 月に公開済)
- ・今後も新規論文およびアーカイブ登録作業を鋭意継続し充実を図ります

③部会誌への投稿原稿の形式指定

- ・現状の原稿形式
  - 指定フォーマット(部会 HP 掲載)による原稿形式の他に、投稿要領にて文字数などを定める指

定フォーマット以外の原稿形式がある

・投稿原稿の形式指定

➤ **指定フォーマットの使用を義務づける** → 編集作業の簡便化, レイアウト費用の削減

<変更後の「投稿要領」該当部>

2. 原稿の形式

原稿は指定のフォーマットに従って作成することとする。フォーマットはホームページ (<http://www.nuce-aesj.org>)から入手できる。

・今後の予定

➤ 今回の部会全体会議の周知後, 今年度内を移行期間とする

➤ 部会 HP の投稿要領や関連情報も変更する

・指定フォーマット

➤ 部会 HP に掲載

<http://www.nuce-aesj.org/j.nuce:info> (部会誌紹介のページ)

御協力のほど, よろしくお願ひいたします

④ 投稿・査読ご協力のお願ひ

部会員のための部会誌継続のために引続き積極的な投稿/寄稿, 査読への御協力をお願ひ致します!

## 2.4 庶務報告

海外発表助成制度、及び研究会支援制度の状況について報告した。

①海外発表助成制度

・平成 25 年度実績

上期分(2月10日締切) 応募なし

下期分(8月10日締切) 応募 2 件

東京大学大学院博士課程 3 年(MIGRATION 2013 英国)

東京大学大学院修士課程 1 年(MIGRATION 2013 英国)

25 年度下期分の応募 2 件について運営小委員会において助成を決定

②研究会支援制度

・平成 25 年度実績

8 月末時点で応募なし

## 2.5 その他

塚本副部長よりフランスの原子力学会からバックエンド部会と合同セッションを開催することについて打診があったことがアナウンスされた。詳細は次回の運営小委員会で検討予定。

以上